

令和3年度 府立北稜高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>本校の教育テーマ 「国際教育」 「環境教育」 「表現活動」 を相互に関連づけて推進し、グローバルな視野と主体的に生きる力を有する生徒を育成する</p>	<p>■3つの教育テーマのうち、「国際教育」はコロナ禍の厳しい状況下でも、オンライン交流や新たな講演会等に活路を見い出せた。「環境教育」「表現活動」では例年以上に充実した取組を実施できたところもあった。環境委員による環境保全活動の取組と教職員によるKES認証の更新をともに継続することができた。</p> <p>■前年度も家庭学習時間数の増加には至らなかった。時間数に焦点を当てた指導から、生徒の学びの意欲に注目した指導にシフトしていくことが課題となる。</p> <p>■進路状況については、四年制大学学校推薦型選抜と国公立大学への進学者数において上昇した。今後は、自己の進路目標の実現を、主体的に追求できる力の育成が今後の課題となる。</p> <p>■広報は、ツイッターやホームページを通して迅速に展開できた。今後も学校の魅力をより一層アピールするよりよい方策を検討し続ける必要がある。</p> <p>■部活動指導は、日々の指導に加え、キューテン会議等を定期的に関いて北稜高校のリーダーとしての自覚を促す指導を進めることができた。今後も、学校リーダーとしての誇りと自信を育てる指導を継続していく。</p> <p>■生徒の自転車マナーに対する苦情は以前より減少し、効果を上げることができた。今後は、ルールやマナーの指導を超えて、自他の命を守る意識を育てる働きかけをおこなっていききたい。</p>	<p>(1) 北稜の魅力伸長 ・特色ある教育活動が数多くあるという本校教育の強みを、「生徒起点」で見直しよりいっそう伸長させる。 ・教育の柱である「国際教育」「環境教育」「表現活動」が、「生徒起点」で、より充実感のあるものとなるように見直しを図る。 ・地域をフィールドとした課題解決力の伸長を通して、グローバルな問題に挑戦する力を育むという、北稜人材育成ストーリーの構築を目指す。 ・部活動、学校行事について、生徒が主体性を発揮し、挑戦する場としての機能を充実させる。</p> <p>(2) 北稜学習改革 ・「主体的・対話的で深い学び」への授業改革、学びにおけるICTの利活用、生徒の学びの道筋の多様性に着目した学習指導等に向けて、組織的に研究・実践する。 ・令和4年度からの一人一台端末による学習活動(BYOD)について、試行、研究を行う。 ・進路指導における「データ分析力」と「情報発信力」の強化を図り、生徒が自らの学力の伸長を確実に実感することを通して、モチベーションを高め、自らの夢を見だし、高み挑戦していくという、階段状の進路指導スタイルの構築を目指す。</p> <p>(3) 北稜の魅力発信 ・中学生の多様なニーズに対応できるという、本校の数多くの特色ある教育活動についての情報発信を、「生徒起点」で見直し、より効果的な発信を行う。</p> <p>(4) 北稜教職員体制 ・北稜魅力推進プロジェクトチームを立ち上げ、生徒、地域(中学生)、教職</p>

評価領域(分掌領域)	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			項目	総合	
国語科	「主体的・対話的で深い学び」への授業改革を行い、生徒の学びの意欲を喚起する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査終了後などに自己を振り返る機会をつくり、自分の課題を見つけて自ら解決しようという意欲を持たせるような指導を工夫する。</li> <li>定番教材の指導方法を見直し、ICTを活用して、生徒が主体的に参加できる授業形態をさらに工夫する。</li> </ul>			
	本校の教育の柱である「表現活動」をより充実感あるものとする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章表現の基礎的な力を養い、他者と協働しながら探究活動に取り組む機会を多く設ける。</li> <li>コロナ禍で活動制限が多くあるが、感染対策に留意しながら、できる範囲での表現活動を実施する。</li> </ul>			
地歴公民科	各科目を通じて「国際教育」「環境教育」「主権者教育」の視点を踏まえた授業展開を心がける。	グローバルな地理的・歴史的認識の下、同時代の世界、周辺諸国の動向に注目しながらの授業展開を工夫するとともに、地域社会との関わりの中、主権者意識を育み、SDGsの目標達成をめざす教育指導を実践する。			
	生徒の実態にあわせた「わかりやすい授業」の指導方法と教材の開発に取り組む。	すべての科目において、学習内容の精選を行うとともに、生徒の視点にあわせた教材開発や指導方法(視聴覚教材・ICT活用)を推進する。また、地理総合、歴史総合、公共及び「総合的な探究の時間」の指導方法と教材の開発をICT活用と併せて研究する。			
数学科	生徒の希望進路実現に向けて、低学年で基礎・基本を固める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>効果的な課題を教科会で検討し、課題を通して家庭学習を充実させ、小テスト等で知識の定着を確認する。</li> <li>必要な生徒に対して基礎補充を定期的に行う。</li> </ul>			
	大学入試に対応できる力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>思考力・表現力・判断力を伸ばす授業展開を教科会や模擬授業を通して研究し、公開授業および研究授業において実践する。</li> <li>進学補習や朝学習、土曜講座等を通して、大学入試に対応した応用問題に取り組む。</li> </ul>			
理科	自然現象への興味・関心を持たせ、授業への集中力を高める。	身近な自然現象を授業で積極的に扱ったり、演示実験、模型、ICT機器を活用したりして、興味・関心を持たせる授業を行う。			
	日常の学習習慣を確立させる。	年間を通じて日々の授業の重要性を強調する。明確で細かな指示を心がけ、生徒がスムーズに学習に取り組めるようにする。学習習慣の確立のため、課題プリント、実験・実習レポート等を定期的に提出させてチェックし、小テストも行う。			
保健体育科	主体的に学ぶ授業の充実をはかり、生徒の学習意欲を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器等を使用し、仲間と相互に協力して課題を見つけたりアドバイスをしたりできるような指導する。</li> <li>ICT機器等を使用することで優れている点や改善点など自己の動作を客観的に把握しやすくする。</li> </ul>			
	各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒のレポートやアンケートを用いて、目標の設定と振り返りをさせることにより、芸術における諸能力が高まったかどうかを評価させる。</li> <li>主体的・対話的で深い学びの実現に向け、ICTやアクティブラーニングを活用した授業を展開する。</li> </ul>			
英語科	「国際理解教育」の中心的な教科として、生徒の学習意欲を高め学力を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習を習慣づけの一助として、各学年とも小テストを毎週実施し、1年生から必ず提出物を出すような習慣をつけさせて、学年が進む毎に自主的に取り組めるようにする。</li> <li>英語検定取得者を増やす。特に、2年終了時まで、アドバンスコースの生徒は準2級、英語コースの生徒は2級取得を目指すよう指導を徹底する。</li> <li>GTECについては、意欲・目標を持って取り組ませ、スコアアップを目指す。2年時には検定版を実施して、オフィシャルスコアを取得させる。</li> </ul>			
	1人の生活者として自立させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートなどを利用し、理解の程度が自己確認できるように工夫する。</li> <li>コロナ禍で限界はあるが、出来る範囲で体験的な学習が出来るようにする。</li> </ul>			
家庭科	共生について考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>乳幼児、高齢者、障がい者等自分たちと異なった環境で生活する人達と、共に生きることについて考えさせる。</li> <li>体験できない教科については、ICTを利活用するなど工夫する。</li> </ul>			
	机上だけの学習を超えた学びを意識させる。	キーボード利用の修得を目指しながら、ネットワークのしくみ、大きさ、区分などを意識させ、社会への正しい参加態度を意識させながら創造と発信の活動をさせる。			